

講演会・パネルディスカッション

# インドネシアにおける道路インフラ投資の方向性



モデレーター

清水 純氏 (一社) 国際建設技術協会研究第三部長

講演者

トリオノ氏 (インドネシア公共事業・国民住宅省道路総局道路ネットワーク開発局計画・ネットワークシステム統括課長)

クンチャヨ・パンブディ氏 (インドネシア公共事業・国民住宅省有料道路庁長官補佐官)

斉藤 宏氏 (日本高速道路インターナショナル株式会社 (JEXWAY) プロジェクト第3部長)

岡本 晃氏 (西日本高速道路株式会社海外事業部海外事業課長)

## 1. 概要

10月28日13時30分から15時まで、インドネシア政府関係者を招いて、今後の道路投資の動向について講演していただいた。また、日本の高速道路会社の取り組みを紹介し、今後の日本企業の参画について意見を交換した。

## 2. 各スピーカーの発言要旨

トリオノ：大規模な道路整備計画の実施

国家中期開発計画 (2015-2019年) では、1,340億米ドルが必要であるが、政府予算で賄えるのは3割であり、残りはPPPや融資などで確保しなければならない。道路整備が遅れているため、主要路線の所要時間は100kmあたり2.7時間もかかっているが、5年後には2.2時間の達成を目指している。計画ではマルチモーダル交通の整備を重点としている。また、高速道路は1,000km、他の新規道路も2,650kmの建設を計画している。高速道路整備を進めないと将来大変深刻な渋滞が発生する。PPPは、現在7つの有料道路で進めている。今後、日本からはITSについても協力をお願いしたい。

パンブディ：PPPに対する政府支援の実施

PPPの土地収用に関しては新たに法律が制定された。政府は、2年以内に土地収用を完了しなくてはならない。政府は引き続きPPPに対して、政府予算や公的金融機関の財源で支援していく。PPPは、土地収用やVGF (Viability Gap Funding) 等の政府支援によって存続性が高まると考えている。

岡本：インドネシア PPP プロジェクトへの参加

2015年、NEXCO西日本およびJEXWAYは、ジャカルタ近郊のビンタロー・スルボン道路事業 (7.25kmの有料道路) に参加した。本事業をきっかけにしてPPPプロジェクトに積極的に参加していきたいと考えている。

斉藤：海外事業展開の方針

JEXWAYの取り組みを通じて、グリーンフィールドのプロジェクト (初期から実施する事業) に参加するのはハードルが高くなってきた。アジアではPPP制度やリスク分担が十分整備されていないことがある。まずはPPP先進国のブラウンフィールドのプロジェクト (進行中の事業) に参加して経験を積み、将来的には振興国のグリーンフィールドに参加したいと考えている。

## 3. ディスカッションの主なやりとり

パンブディ：土地収用について、費用および実施は政府が行わなくてはならない。アンソリシテッド (民間提案案件) では土地収用コストは企業側の責任ではあるが、政府の役割が明確ではなく、様々な解決法がある。

日本企業には是非、技術、経験、実績を提供していただきたいと希望している。ETCや長大橋など日本の最先端の技術に期待をしている。



## おわりに

インドネシアのPPPでは、土地収用が大きな課題となっている。また、政府からの支援がとても重要である。今後も、継続的な対話をして意思疎通を図っていきたい。

(文責：国土交通省道路局企画課国際室企画専門官 田中 衛)